様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：６４４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６８４２

研究課題名（和文）モノを通してみる現代ペルーにおける聖人信仰の形成と発展に関する人類学的研究

研究課題名（英文）An Anthropological Study on the Role of Objects in the Development of Catholic Devotion to Saints in Peru

研究代表者
八木　百合子（YAGI, YURIKO）

国立民族学博物館・研究戦略センター・機関研究員

研究者番号：８０６２２１３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、近年宗教的なモノの商品化が著しいペルーにおける聖像の生産と流通ネットワークの実態について解明を行うものである。ペルーでは20世紀後半、地方から都市への人口移動とともに首都リマに聖像の生産市場が拡大すると同時に、リマに形成された聖具店街を中心に、聖像は各地に流布した。こうした消費拠点を介して、都市と地方の双方から往来する人びとの手によって広がる聖像の流通ネットワークは、現代の聖人信仰を支える重要なネットワークとなるものである。

研究成果の概要（英文）：This study explored the network of the production and distribution of religious objects as catholic saint statue in Peru. The factory that produce saint statue grown in capital area having received immigrant from rural area in latter half of the 20th century. At the same time in Lima had formed various shops that sell religious objects in where come many person not only urban residents but also rural residents to buy a saint statue. This network that connect between urban and rural area through such religious objects is important to support and create the religious practice as saint devotion in Peru.

研究分野：文化人類学

キーワード：宗教　キリスト教　聖人信仰　モノ　生産・流通・消費　聖像　ペルー　アンデス

１．研究開始当初の背景

今日、産業化やグローバル化の加速を背景に、これまで希少性が重んじられてきた工芸品や美術作品までも、その複製品が数多く世に送り出されている。そのようななか、宗教的な領域での「商品化」もかつてないほど急速に進んでいる［Tambiah 1984, 土佐 2011］。特にペルーでは「聖なるもの」の商品化が著しく、その動きは都市にとどまらず、地方村落でも大きな波紋を及ぼしている。例えば、以前は聖地や特定の教会堂でしか礼拝することができなかった聖人の聖像でさえも「商品」として市場に流通し、それを個人が所有することも可能になった。その結果、聖像が持ち込まれた地域では、そこからまた新たな信仰が生成されている。聖像＝モノの流通の拡大は、聖人をめぐる人々の宗教実践を変容させ、それはまた、近代以降カトリック教会の権力の弱体化とは裏腹に活性化を続ける聖人信仰を下支えしていると考えられるのである。

しかしキリスト教では神学上、物質より精神を重視する立場をとるため、モノあるいは物質性から信仰形成を論じることは否定的に捉えられてきた。モノの側から信仰を論じることは、偶像崇拝と紙一重的な性格を有するからでもある。したがって、キリスト教思想や宗教哲学の領域でも、モノが教説のなかで占める位置は限られている［佐藤 2009］。また、キリスト教世界では、聖書や福音書、祈祷書の朗誦など言語的媒体を通じた教義理解の促進や信仰心の育成を重んじることからも、布教活動で重視されるのは、一連の儀式を司る宣教師や修道士たちの実践であり、それに付随するモノは副次的な存在でしかなかった。

その一方で、実践面では物質性が信仰との関わりでより重要な契機となっていることも指摘されている。例えば、植民地時代の南米先住民の布教活動では、宣教師たちが、音楽、演劇、絵画、聖像などの媒体を用いて、知性のみならず感覚へ訴えかけるという非言語的な手段を積極的に活用しており［斎藤・岡田 2007］、モノは非西洋諸国、とりわけ文字を解さない人々の信仰形成のうえではきわめて重要な意義をもっていたことは否定できない。現在でも、ペルーの地方村落のように特に識字率の低い地域では、神の視覚的な表象媒体である聖像は、信仰の形成過程において、聖書以上に重要な役割を果たしていると考えられる。

もともとペルーでは、聖像の制作や流通は教会や修道会の管理下、きわめて限定的かつ閉鎖的であった。ところが 20 世紀になると、聖像をはじめとする「聖なるもの」の生産も世俗のセクターへと開放された。さらに、20 世紀後半からは経済成長に伴う生産市場の拡大により、規格生産化された聖像が大量に市場へと出回ると、一般の人々も容易に入手することが可能になった。

しかしながら、従来の宗教研究で聖像が言及されるのは、それが表象する聖人の聖性との関わりでしかなく、聖性を表す媒体であるモノ自体については看過されてきた。また、モノ自体の制作が論じられることがあっても、それは造形作品として価値をもった特定の聖像が焦点化されるにとどまっており、一般の人々が手にする、大量生産化された聖像に関する議論には及んでいない。

では、そもそも大量生産／消費の行程とは異なる価値に置かれていた聖像が、どのような経緯と力関係のもと商品化されるに至り、また、商品となった聖像はどのような流通ネットワークを経て、人々の手にわたっているのだろうか。そして、それはいかにして聖性を帯び、「聖なるもの」を中心にいかなる社会関係や実践が繰り広げられているのだろうか。

こうした聖像というモノを中心に展開される人々の多様な実践を捉えていくことで、今日、教義や教会レベルでの実践を越えて展開されている、聖人信仰をめぐる実践とその発展を捉えることが可能になると考える。

２．研究の目的

本研究は、聖像の生産と流通に焦点をあて、現代ペルーにおける聖人信仰の形成と発展について人類学的に追究するものである。その際、聖像というモノを分析の中心に据え、モノと人々が作り出す多様な実践を捉えることを目的とする。

３．研究の方法

本研究では、聖像の生産と流通のネットワークを解明するために、ペルー国内における聖像の生産および消費拠点が集中するリマとクスコの 2 か所に焦点をあて現地調査を実施した。具体的には以下の 4 点である。

（1）リマおよびクスコの複数の工房を訪問し、生産活動にたずさわる人びとへの聞き取り調査と参与観察を実施し、現代の聖像制作の実態把握を行った。

（2）リマの聖具店街およびクスコの聖像販売市において聞き取り調査を行い、店舗の設立時期、店頭に並ぶ聖像の入手ルートや仕入れ先など、聖像の流通に関わる情報収集を行った。

（3）リマ市内の図書館において聖具店街周辺の歴史に関する資料収集を行った。

（4）聖具店の来店客ならびに聖像を実際に購入した人びとに対するインタビュー調査を行った。

４．研究成果

（1）ペルーにおける聖像生産市場の拡大

現在の聖像生産の中核を担うリマでは、ここ 30 年ほどで生産市場が拡大してきた点が明らかになった。聖像の生産活動に従事する人びとのなかには、20 世紀後半に地方農村からリマにやってきた人びとが多数存在する。

ペルーでは、1980 年代以降、農村部から都市部への人口流入が大きく加速するが、首都における聖像生産市場の拡大にもこうした社会動向が関わっているといえる。

また、首都において聖像の大量生産化が進む一方、民芸品アーティストとして名をはせた著名な聖像制作者が多数活動を展開するクスコでは、それが国内だけでなく、海外へと市場を展開している。クスコでは芸術性が高く国際的に名の知れた職人がつくる高品質・高価格な聖像を求める顧客が比較的多いだけでなく、観光化や地域振興とも相まって特定の商品の価値が上昇する状況が観察され、国外からもそれらを求めてやってくる人もいる。このように、高品質・高価格な聖像市場が展開するクスコと、生産市場の拡大とともに廉価で大量生産化された聖像が出回る首都というように、国内において聖像の制作や市場動向が二極化している現状が明らかになった。

（2）聖具店街の展開

国内の聖像販売の大部分を占める、いわば聖像流通の拠点となるのが、リマの旧市街地の一角にあるナサレナス教会周辺の通りである。この地域には二つの通りを中心に、現在 40 を超える店舗が存在する。そうした店舗の多くは 1990 年頃までは現在のような店構えをもっておらず、かつては多くが露天商として販売を行っていたという。リマ市の条約により露天商が廃止されて以降は周辺のビル１階の店舗や市が公認する移動売店販売に移っていった。

彼らがこの地に市場を展開した背景には、聖具店街の周辺に、ペルーで篤い信仰を集めるキリスト像（セニョール・デ・ロス・ミラグロス）を祀るナサレナス教会および国家の守護聖人が祀られるサンタ・ロサ教会という二大聖地がある。こうした聖地を訪れる人のなかには聖具店街を通り、そこで聖像を購入する人も少なくなく、聖具店の立地と聖地との関係が重要である。実際、売上および来店客の動向に関する調査では、聖具店街は１月から 3 月はほぼ閑散期で、4 月から年末のクリスマスが終わるまでは平均的な来店・売上がみられる時期であるが、とくに繁盛期は 8 月前後および 10 月である。これは上述の二つの聖地で行われる祭典の時期と関わっていることが判った。

（3）購入者の動向にみる国内のネットワーク展開

調査期間中に聖具店を訪れた人びとの話からは、彼らがリマだけでなく、地域を問わず全国からやって来ていることが判明した。彼らの話によれば、地方都市でさえも聖像を販売している店は稀少で、リマがほとんど唯一の国内の聖像販売市場である点が確認できた。加えて、リマではその距離にもかかわらず比較的安価なものが購入でき、また取り扱っている大きさや材質も多種にわたることから、購入者にとっては選択の幅が広いという利点もある。また、工房の職人を直接の仕入れ先とするリマの聖具店は、有名であるがゆえにどこにでも売られているような聖人の聖像だけでなく、地方では入手困難な珍しい聖人像の制作・販売を請負うなど、顧客のニーズに合わせたさまざまなサービスを展開している。こうした、近年の顧客の多様化に合わせたサービスの一つとして、地方からの購入者のために、発送の便宜もはかっている。手厚い梱包や輸送手段の確保にも応じるなど、国内各地への聖像流通を促す役割も担っている点で、聖像流通ネットワークにおける聖具店の重要性が浮かび上がってきた。また、購入者のなかには、聖地参りの折に訪れる人だけでなく、村の祭りに合わせて地方から聖像の購入にやってくる人、さらには、村から首都へと移住した人が村祭りに帰る際に聖像を購入するといった、双方向の動きが観察された。

このように、とくにリマの聖像販売店を拠点に、都市と地方がつながる関係と、その双方から移動する人びとともに聖像が各地に広がるという、一般の人びとの手を介した聖像の流通のネットワークの動向とその広がりがみえてきた。こうしたネットワークは、今日のペルーの聖人信仰を支える重要なものである。

〈引用参考文献〉

岡田裕成・齋藤晃、2007、『南米キリスト教美術とコロニアリズム』，名古屋大学出版会。
佐藤啓介、2009、「モノを否定する、モノが否定する－現代キリスト教形象論からみた「否定的」フェティシズムの可能性」、『フェティシズム論の系譜と展望』、京都大学学術出版会。
Tambiah S.,1984, *The Buddist saints of the forest and the cult of amulets*, Cambridge University Press.
土佐桂子、2011、「パゴダと仏像のフェティシズム」、『ものの人類学』，京都大学学術出版会。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

① 八木百合子、「ペルー風ドーナツ　ピカロン」『月刊みんぱく』第 40 巻 12 号、pp.14-15、2016 年、査読無。
② 八木百合子、「海外研究動向：スペインにおける人類学研究の展開－地方主義を超えて」『民博通信』No.153、p.25、査読無、2016 年。
③ 八木百合子、「アンデスの聖地をめぐる」『月刊みんぱく』第 40 巻 5 号、pp.10-11、2016 年、査読無。
④ 八木百合子、「都市が生み出す力－リマに暮らす農村出身者たち」『ラテンアメリカ

時報』No.1413、 2015／16 年冬号、pp.46-48、2015 年、査読無。

⑤ 八木百合子、「ペルーの選挙制度」『選挙時報』64 巻 10 号、pp.1‐22、2015 年、査読無。

⑥ 八木百合子、「聖母への贈りもの―奉納品を通してみる世界」『チャスキ（アンデス文明研究会）』 、pp.11-13、2015 年、査読無。

〔学会発表〕（計 6 件）

① 八木百合子、「アンデスの聖地をめぐる」、カレッジシアター「地球探究紀行」、2017 年 1 月 25 日、あべのハルカス近鉄本店。

② 八木百合子、「聖なるものの継承―聖像を通じてみる人・モノ・信仰」、共同研究：演じる人・モノ・身体―芸能研究とマテリアリティの人類学の交差点、2016 年 10 月 30 日、国立民族学博物館。

③ 八木百合子、「ペルーの社会状況と南高地における人類学調査」、平成 28 年度海外学術調査フォーラム、2016 年 7 月 9 日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究センター。

④ 八木百合子、「現代アンデスの聖母崇拝にみる古代文明の資源化－奉納品の分析を通じて－」、文部科学省科学研究費新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」第 3 回研究者全体集会、2016 年 6 月 19 日、キャンパス・イノベーションセンター東京。

⑤ Yagi Yuriko, Migration and Cultural Change in Peru, School's Special Lecture Series on Latin America, Hankuk University of Foreign Studies, 2016 年 2 月 4 日, Seoul, Korea.

⑥ 八木百合子、「アンデスの聖人崇拝― モノに映し出された信仰の世界を読む,」アンデス文明研究会定例講座、2015 年 10 月 17 日、 東京外国語大学本郷サテライト。

〔図書〕（計 1 件）

① 八木百合子、「ティティカカ湖の浮島の生活――アンデス高原地帯の暮らし」、藤木庸介編『住まいがつたえる世界のくらし――今日の居住文化誌』、世界思想社、pp.133-145。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/15H06842

報道関係
八木百合子「アンデスのキヌア（みんぱく食の民族誌：考える舌）」、京都新聞 2016 年 5 月 11 日

６．研究組織
(1)研究代表者
八木　百合子（YAGI, Yuriko）
国立民族学博物館・研究戦略戦センター・機関研究員
研究者番号：80622133

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）